
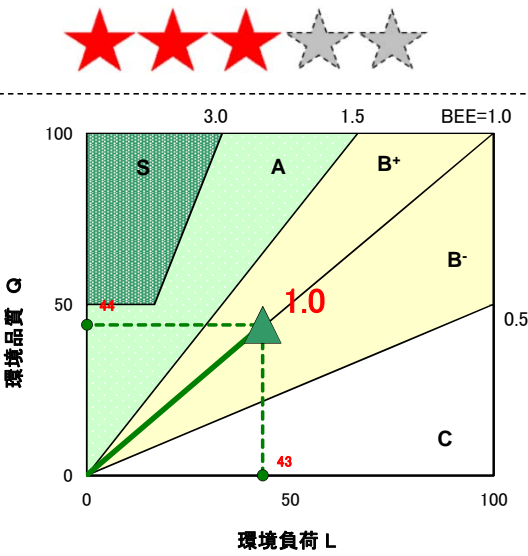


# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)ケーズデンキ菊池店	階数	地上1F		
建設地	熊本県菊池市西寺字古閃後1447-1	構造	S造		
用途地域	指定なし	平均居住人員	400 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	6,570 時間/年		
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2016年4月14日		
敷地面積	4,966 m <sup>2</sup>	作成者			
建築面積	2,322 m <sup>2</sup>	確認日	2016年4月15日		
延床面積	2,289 m <sup>2</sup>	確認者			

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.0

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)



排出率

**93%**

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

**75**

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

76.2

62.5

67.5

93.0

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ケースデンキ菊池店	階数	地上1F
建設地	熊本県菊池市西寺字古閃後1447-1	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	400 人
気候区分	6地域	年間使用時間	6,570 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2016年4月14日
敷地面積	4,966 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	2,322 m <sup>2</sup>	確認日	2016年4月15日
延床面積	2,289 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 184 230 276 322 368 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

### 3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 **評価点 = 75**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 76.2**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 62.5**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 67.5**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 93.0**

#### 重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

- ・室内環境、サービス性能に配慮している。
- ・室外環境及び、敷地外環境への配慮を行っている。
- ・建物のエネルギー性能の向上に努め、資源、マテリアルの確保にも努めている。

### Q1 室内環境

- ・換気性能に配慮している。

### Q2 サービス性能

- ・天井高を確保し、広さ感に配慮している。
- ・防汚性の高い内装材を採用するなど、建物の維持管理に配慮している。
- ・耐震性を確保している。
- ・耐用年数の長い部品、部材を採用している。
- ・階高、壁長さ比率を確保し、空間のゆとりに配慮している。

### Q3 室外環境（敷地内）

- ・緑地を設けている。
- ・景観条例を満たす。

### LR1 エネルギー

- ・複合ガラスの採用で、建物の熱負荷抑制に配慮している。

### LR2 資源・マテリアル

- ・リサイクル資材を活用している。
- ・LGS下地の採用等、解体時における、リサイクル性に配慮している。
- ・防水工事のプライマーなど、化学物質の使用削減に努めている。

### LR3 敷地外環境

- ・ガス設備無しなど、大気汚染防止に配慮している。
- ・光害対策がドローンのチェックリスト、広告物照明の配慮事項の過半を満たすなど、光害抑制に配慮している。

### その他

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15					2.6
1.1 騒音		3.0	0.40					
1.2 遮音		3.0	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0				
2 界壁遮音性能		3.0		3.0				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0		3.0				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0		3.0				
1.3 吸音		1.0	0.20	3.0				
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35					2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50					
1 室温		3.0	0.50	3.0				
2 外皮性能		3.0	0.17	3.0				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.33					
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0				
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25					3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50					
1 昼光率		3.0		3.0				
2 方位別開口				3.0				
3 昼光利用設備		3.0	1.00	3.0				
3.2 グレア対策								
1 昼光制御		3.0		3.0				
3.3 照度		3.0		3.0				
3.4 照明制御		3.0	0.50	3.0				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.1</b>	0.25					3.1
4.1 発生源対策		3.0	0.50					
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0				
2 アスベスト対策								
4.2 換気		3.5	0.30					
1 換気量	建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍以上	4.0	0.50	3.0				
2 自然換気性能		3.0		3.0				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0				
4.3 運用管理		3.0	0.20					
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50					
2 喫煙の制御		3.0	0.50					
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>					<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.2</b>	0.40					3.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40					
1 広さ・収納性		3.0		3.0				
2 高度情報通信設備対応		3.0		3.0				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30					
1 広さ感・景観	売場天井高4.50m	5.0	0.33	3.0				
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33					
3 内装計画		1.0	0.33					
1.3 維持管理		4.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い、建材の採用	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保	掃除流しの設置で、建物の維持管理に配慮	4.0	0.50					
3 衛生管理業務								
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.2</b>	0.30					3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁タイル40年	5.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種がB以上、Eは不使用	5.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20					

2.4 信頼性			2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.90m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.09	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		複層ガラスの採用	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.92 住宅(専有部) 0.83	3.0	0.50	-	-	3.0
		集合住宅以外の評価(3a.3b)	3.0	1.00	-	-	
		集合住宅の評価(3c)	-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
		集合住宅以外の評価	3.0	1.00	-	-	
		4.1 モニタリング	3.0	0.50	-	-	
		4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
		集合住宅の評価	-	-	-	-	
		4.1 モニタリング	3.0	-	-	-	
		4.2 運用管理体制	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
		1 雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
		2 雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		クラッシュランRC40(路盤材)、ビニル床タイル、ビニル床シート	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS下地の採用	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		防水工事のプライマー	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
		1 消火剤	-	-	-	-	
		2 発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
		3 冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率=93%	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		ガス設備無し	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
		1 雨水排水負荷低減	-	-	-	-	
		2 汚水処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
		3 交通負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
		4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
		1 騒音	3.0	1.00	-	-	
		2 振動	-	-	-	-	
		3 悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
		1 風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
		2 砂塵の抑制	3.0	-	-	-	
		3 日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
		1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	
		2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

建物名称 (仮称) ケーズデンキ菊池店

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		75
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				76.2	0.40	30.48
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.08			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.07			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				67.5	0.20	13.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
<b>④ 循環型社会の実現</b>				93	0.20	18.60
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数